



袁長だより

NO. 4. 26. 4. 30 (Tue)

私の趣味のひとつに「絵本を読む」事があります。

若い頃は、お給料の殆どを絵本代に注ぎ込んでしまっていた程！

今は気持ちだけは、ストーリー・絵のタッチ・セリフなど味わって読んで
若いと思っている。いと、主人公の想いが伝播し絵本の世界に
ですが…♡ 入り込んでしまったり、感動して涙ある事もあります。

そして絵本を読んでいる時は、ふと思うと“集中”している自分に気が
つきませす。そこで、先日こんな記事を目にしました。

絵本の読み聞かせと「聞く力」

「先生の話が聞けない」「授業中に座ってられない」…小学校に
入学したばかりの生徒たちの中には、学校生活になじめず大変な思いを
している子どもが少なからずいる、そんな声をよく耳にします。とりわけ問題の
中心となるのが、小学校にあがる前に子どもたちの「聞く力」をどう育てるか
ということだ。

小学校では45分間の授業を受けることとなります。学校での授業
をイメージすると座って話を聞くための「我慢強さ」や「忍耐カ」を
イメージしがちです。しかし話を「聞く」ことは、決して受け身の行為
ではないんです。むしろ、相手の言葉を耳で聞き、話している内容を
イメージし理解するといふ、とても能動的な行為なのです。

相手の話している内容を心の中でイメージ出来ない子どもは、
非常に困難に直面します。先生の話がイメージ出来ない為、内容

を理解出来ず、学びの時間に辿りつけられないのです。では、子ども達の
「聞く力」をどう育てるか。それは、園やご家庭での絵本の読み聞
かせが大切な役割を担っています。

心を動かす体験が育む「学ぶ力」

絵本の読み聞かせで、最初は言葉を聞くだけではイメージする
ことが出来なかった子どもも、楽しいお話に魅せられ、細部に
描きこまれた絵を何度も見たり、友だちの反応に共感したり、
繰り返し読んでもらうたびにイメージする力(想像力)を身に
着けていきます。

子ども達がイメージを十分に働かせるには、頭で考えるよりもまず、
心を動かす体験を積み重ねることが大切です。さまざまな知識を
単純に暗記するだけでは、それは受け身の行為に留ってしまいます。読み
聞かせを通して「面白い」「不思議だ」と感じた体験があれば、
「自分でもやってみたり」「もっと知りたがり」といった形で、知る事、学ぶ事への
期待が高まり、想像力を働かせることにつながります。子ども達は
絵本を繰り返し読んでもらい、心を動かす体験を積み重ねる事で、
一生涯を支える「聞く力」「学ぶ力」を育んでいくのです。

この記事に、私も全共感で、更にはもうひとつのポイントは、ご家庭で
読んであげる時の親と子と触れ合いの時、これも大切と思うんです。
我が子を膝にのせて、もしくは添い寝しつつ寄り添って読んで
あげ、「楽しい・嬉しい」を共有する。この瞬間がゆるぎない